

響き合う感性と情熱。

デュオの理想的な演奏がここに・・・。

2年ぶりのデュオ・リサイタル。

鈴木理恵子

RIEKO
SUZUKI

&

AKIRA
WAKABAYASHI

若林顕

シンクロリサイタル Vol.2 2025

出演

鈴木理恵子(ヴァイオリン)

若林顕(ピアノ)

PROGRAM

ビーバー

パッサカリアト短調～「ロザリオのソナタ」より

Biber: Passacaglia in g minor – Rosary Sonatas

モーツァルト

ヴァイオリン・ソナタ 第28番 変ホ長調 K.380

Mozart: Sonata for Violin and Piano No. 28 in E-flat major, K.380

シューベルト

幻想曲 ハ長調 D.934, Op.159

Schubert: Fantasy in C major, D.934, Op. 159

ベートーヴェン

ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op.47 「クロイツェル」

Beethoven: Violin Sonata No. 9 in A major, Op. 47 "Kreutzer"

2025 **3/16** 日 14:00開演(13:30開場)

浜離宮朝日ホール 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
朝日新聞東京本社・新館2階

チケット料金[全席指定] 一般 ¥5,000 学生 ¥2,000

主催:アスペン/朝日新聞社/浜離宮朝日ホール

後援:一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

お問合せ・マネジメント:アスペン 03-5467-0081

プレイガイド

アスペン 03-5467-0081(土日祝を除く10:00-18:00)

朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990(日・祝除く10:00-18:00)

朝日ホール・チケットセンター 検索 <https://www.asahi-hall.jp/hamarikyue+>(イープラス)<https://eplus.jp/>

そのほかのデュオ・リサイタル公演(プログラムはすべて同じではありません)

2月8日(土) 仙台中央音楽センター/2月14日(金) 佐久市佐久平交流センター/2月21日(金) アクロス福岡/3月9日(日) ピアノプラザ群馬

※未就学児のご入場はご遠慮ください。託児サービスをご利用くださいませ(要予約)。【託児サービスのお問合せ・お申込み】イベント託児・マザーズ:0120-788-222
※やむを得ない事情により、曲目などが変更となる場合がございます。演奏会中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはいたしません。あらかじめご了承ください。

© Akira Muto

Aspen

鈴木理恵子 ヴァイオリン

Rieko Suzuki, Violin

桐朋学園大学卒業後、23歳で新日本フィル副コンサート・ミストレスに就任。篠崎功子、J.ギンゴールド、H.シェリング、N.ミルシタイン、M.シュヴァルベの各氏に師事。1997年からはソリストとして主要オーケストラとの共演、全国各地でのリサイタル他、国内外の数々の音楽祭に招かれる。スウェーデン・マルメ市立歌劇場の客演コンサートマスターとしても定期的に招かれるなど、その活動は幅広い。また2004年より2014年2月まで、読売日本交響楽団の客員コンサートマスターを務めた。

2004年ニュージーランド、2005年バンコク、2006年中国の北京、成都、2007-08年はインドネシア、カンボジア、2009年はインドネシア、インド等、アジア各国の音楽祭に招かれて無伴奏リサイタル等を行い、いずれも大絶賛を博す。各国で後進の指導にも力を注いだ。

また著名な作曲家たちからの信頼も厚く、多くの作品の初演に指名を受けている。CDは、ヴィヴァルディ「四季」、「夏の夜の夢」、「フロム・ジ・オリエント」、「Writing on the Wall」、久石譲プロデュース「ウィンター・ガーデン」、「ショパン・ファンタジー」等のソロCDをリリース。若林顕とのデュオでは「ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ全集」、「シューベルティアーナ」、「モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ集Vol.1~Vol.3」、「レスピーギ&フランク：ヴァイオリン・ソナタ」などいずれも高く評価されている。

2008年に横浜美術館にて、東西の音楽やアートがジャンルを越えて交わる「ピوند・ザ・ボーダー音楽祭」を自らプロデュース（その後2009年・2014年・2016年・2019年横浜みなとみらいホール、2010年掛川市文化会館、2018年相模湖交流センター&地域で開催）。国際的に活躍を続けるアーティスト達が集まり、クラシック音楽、雅楽、ホーミー、声のパフォーマンス、絵画、書、花架拳等がボーダーレスに響き合い一体となる斬新な内容が、大変高く評価されている。

また近年は夫でもあるピアニスト若林顕とのデュオで、数々のヴァイオリンとピアノのための名作に意欲的に取り組んでおり、その真摯な解釈による奥深い演奏が高い評価を得ている。2014年から12回にわたる「室内楽シリーズ」でデュオから六重奏まで室内楽の魅力を伝えるコンサート（2020年12月に終了）、2020年から2022年まで生誕250周年のベートーヴェン・イヤーを記念した「ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会」（2つのロマンス、ヴァイオリン協奏曲のピアノ伴奏版、協奏曲・ソナタの断章までも含む4回）を行った。2022年11月には「シンクロリサイタル」を行い、デュオのアンサンブルとして理想的な境地を示した。ソリストとしてはハンガリーのソルノク市響やジュール・フィルとの共演、デュオ・リサイタル（スウェーデン、ドイツ）、デュオ・トリオ（フランス）等、ヨーロッパにも活動の場を広げている。

RIEKO SUZUKI

AKIRA WAKABAYASHI

S y n c h r o R e c i t a l V o l . 2

© Akira Muto

何ともスケールの大きな演奏であった。東京では4年ぶりとなった2022年のシンクロ・リサイタルでは、モーツァルト、グリーグ、ドヴォルザーク、R.シュトラウスという各々が個性豊かな作品に対し、その時代を彷彿とさせるフレージングや呼吸感を携えて楽想を生き活きと歌わせて圧巻。また各々の作曲家の原語にあくまで忠実に寄り添った比類ないデュオを聴かせてくれた。

今回のVol.2は古典派を中心としたプログラムである。日本を代表するこのデュオは“シンクロ”に相応しく、伝統的奏法に立脚した自然な流れで音楽を歌わせ、色彩変化を千紫万紅と移ろわせながらウィーンの高貴な香りを醸し出し、揺るぎない造形、芳醇な詩情、そして垂涎のアンサンブルで私たちを魅了してくれるに違いない。

(音楽評論家：真嶋雄大)

若林顕 ピアノ

Akira Wakabayashi, Piano

日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニスト。20歳で第37回ブゾーニ国際ピアノコンクール第2位、22歳でエリーザベト王妃国際コンクール第2位の快挙を果たし、一躍脚光を浴びた。その後国内外の多数のオーケストラとの共演や国内外でのソロ・リサイタル等、多忙な演奏活動を展開し、現在に至るまで常に第一線で活躍し続けている。東京藝術大学で田村宏氏に、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院、ベルリン芸術大学でハンス・ライグラフ氏に学ぶ。第3回出光音楽賞、第10回モービル音楽奨励賞、第6回ホテルオークラ賞受賞。2002年にニューヨーク・カーネギーホール（ワイル・リサイタル・ホール）で鮮烈なリサイタル・デビューを果たした。共演したオーケストラは、N響をはじめとする国内の主要なオーケストラのほか、ベルリン響、サンクトペテルブルク響、ロシア・ナショナル管などの海外の名門オーケストラ、ロジェストヴェンスキー、アルブレヒト、ハーディング名指揮者とも数多く共演している。室内楽の分野では、ブラッハー、イッサーリス、ルルー、パボラクなど、内外の

名手達と数多く共演。また、近年はヴァイオリニスト鈴木理恵子とのデュオで、作品の本質に迫る深い音楽性が各地で非常に高い評価を受けている。レコーディングでは多数のソロ・アルバムをリリース。最新盤「ショパン：エチュード全集」など全てレコード芸術・特選盤となり、極めて高い評価を受け続けている。また、2014年以降リリースされた鈴木理恵子とのデュオによるCDも常に高い評価を受けている。リサイタルにおいては2014年と2016年にサントリーホール（大ホール）、2020年11月には4年ぶりに東京芸術劇場コンサートホールでソロ・リサイタルを行い、2023年からは東京芸術劇場でリサイタル・シリーズを行っており、第1回・第2回とも高い評価と聴衆からの支持を得ている。また、自身では3回目となる「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲シリーズ」を2017年に完結し、2018年より2022年まで「ショパン：ピアノ作品全曲シリーズ」（全15回）を行った。